

奥羽大学報



目次

平成19年度入学式	2
影山晴川育英奨学金授与式／教員任期制の導入／ 歯学部外部評価委員の現地視察	5
新カリキュラムスタート—歯科医療人間学の展望—／新入生オリエンテーション	6
平成19年度在学生ガイダンス／(歯)新入生学外研修	7
(薬)フレッシュマン・キャンプ／(薬)キャリアガイダンス／ 第100回歯科医師国家試験／学友会活動記録	8
大学院歯学研究科入学式／大学院オリエンテーション／附属病院	9
校内バリアフリー工事完成	10
大学土曜日休業／私が薦める一冊の本	11
余滴／同窓会	12
同窓生のひろば	13
指定職紹介	15
新任教授紹介	17
平成19年度教学関係人事／平成19年度客員教授・非常勤講師	20
人事	22
慶弔	23
郡山自転車ロマン紀行(連載)	24
平成19年度進学相談会日程(前期)	別刷
平成19年度オープンキャンパス	別刷

113

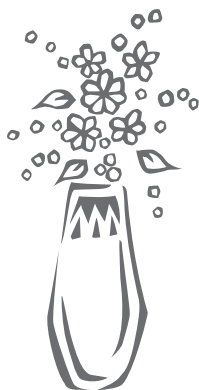
平成19年度入学式

今年度の入学式は4月4日(水) 記念講堂で挙行された。今まさに桜が咲こうとするキャンパスに、全国から多くの新生が集まった。

式は国歌斉唱に始まり、学部ごとに新生全員を呼名し、新生の入学が清水秋雄学長から許可された。厳粛な雰囲気の中で式は進行され、担当教員の紹介で閉じられた。

なお、成績の優れた新生に対し授与される、奥羽大学影山晴川育英奨学金の授与者は、下記のとおりであった。

歯学部 歯学科 木下 誠
 〃 三浦 琢磨



告 辞

学長 清水 秋 雄

平成19年度奥羽大学入学式を挙行するに当たり、ご来賓の学校法人晴川学舎理事長影山英之先生はじめ役員・関係各位のご臨席を賜り、また多くのご父兄のご列席を戴き、衷心より御礼申し上げます。

歯学部第36期ならびに薬学部第3期、新生諸君、入学おめでとう。今日までの努力と、歯学・薬学を究めようとする意気込みに、敬意を表するとともに、ご父兄ともどもお喜びのこと、同慶の至りであります。

諸君が幼少期に、思い描いた職種は、生活に密着した憧れの要素の強いもので、時には変わり、揺れ動いたことでしょう。学年が進み、特に受験期には、具体的に決定しなければならず、さぞ現実的に熟慮されたことでありましょう。結果、諸君は、本日の入学式において、「歯学、薬学を専攻する」と宣言したことになります。

医療系学部といわれる、医学、歯学、薬学部の教育は、医学の社会的適応という観点から、医療、社会医学系の教育を重視する体制をとるようになりました。すなわち、医学教育は、患者の視点に立った人間性豊かな医療人の育成に的が絞られてきました。

かつて医療は、治療そのものでしたが、今や地域社会における疫学像、健康観、医療事情が変化し、健康者には健康増進・予防を、病人には治療を、治療後には機能回復を、と医療内容の幅が広がり、健康者から重篤な病人までをカバーするようになりました。最近では、国策としても平均寿命の延長策に止まらず、自立した社会生活が営める健康寿命を、如何に延長させるかに転換し、また国民自身も健康管理に関心を持つようになりました。

しかし、一方では人口構造の変動による高齢者の増加とその対応が問題視されています。高齢者の特徴は、身体的、精神的機能が減退し、病気に罹りやすく、しかもその種類が複数蓄積するようになります。それが原因

で連鎖的に他の機能が低下し、日常の生活動作に支障をきたすようになります。いわゆる廃用症候群が生じ易く、それが悪循環する傾向があります。

この幅広く、多様化するニーズに対応するには、優れた専門学力・技能はもちろん、医療人としての資質が問われることとなります。

諸君には、本学での社会医学、医療人間学等を重視した教育、また学友、教職員、さらには社会的な人的交流等の調和のとれた学習によって、本学の建学の理念である「人間性豊かな有為な医療人の育成」に、限りなく接近されるよう期待しています。また、地域社会からも、将来の医療を担う要員として、大きな期待が寄せられています。

それに応えるべく、学問の修得には厳しく、思いやりのある、温かい医療が施せる医療人を目指し、健康で充実した学生生活を送るようお願い、告辞といたします。

祝 辞

理事長 影山 晏 弘

法人を代表して心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

皆さんは「歯科医師」または「薬剤師」となることを目指して、本学を選び、只今学長より許可を得て入学を果たされました。

皆さんはそれぞれに、小学校では児童として、中学校・高等学校では生徒として教育を受けてこられました。本学に入学したことで、本日より「学生」となられました。

「学ぶ」とは「まねぶ」に由来し、“まねてすること”で、自ら学ぶ者を「学生」と呼称します。ですから、大学では漫然と出席だけして時間を過ごしても、覚えられることはありません。自らが学ぼうとする意欲と、理解する努力がなければ、修めることができません。

学ぶことは難しく、苦しさや辛さが伴うことがあります。あきらめず、逃げ出さず、

投げ出さず、根気よく続ければ、多くのことを知り、複雑なことも理解でき、物事の善し悪しの区別ができるようになり、それら全ては誰からも奪われることのない「知識」として、自分だけのものにすることができます。

先程、学長告示の後、新入生代表の方が学則を守り学業に専念することを誓われました。貫き通して下さい。人生に大切なことは「志」、即ち人生における目標であります。本学の原点である創立者の座右銘は「志ある者事遂に成す」という言葉でした。

創立者は貧困家庭に育ったことから小学校しか通えず、14歳のとき左足に大怪我を負いますが、十分な治療を受けることができなかつた結果、17歳で歩行困難な身体障害者となって社会に出ることになりました。以後50歳まで、治ることのない骨髄炎の手術の繰り返しで、全身に受けた疤痕は30数か所にもなりました。

不自由な毎日の生活の中で立てた目標は、他人様に迷惑をかけない一人前の社会人になることでした。努力の甲斐あって、歯科技工士の手職を身につけ、独立を果たしました。次に目指したことは、自分と同じ境遇にある社会的に立場の弱い人々の力になることでした。昼夜の別なく頑張つて、身体障害者の更生事業所を幾つか興し、周囲から信用を寄せられるようになった頃、自立させてくれた社会に対して感謝の気持ちが強く湧き、自分が恵まれることのなかつた医療と教育の必要性を強く感じ、一念発起して、本学の前身である東北歯科大学を創立しました。

皆さんは「歯科医師」または「薬剤師」を目指して、今第一歩を踏み出したのですから、なんとしても目標を達成していただきたい。本日同席した皆が、そのことを希っています。

また、本学にいる間に是非とも身につけてほしいものがあります。それは社会人として最も大切な隣人を「思いやる心」であります。人の役に立ちたいと思う心を持ち、言葉や行動に表すことができるようになっていただきたい。本学の建学の精神である「豊かな人間

性」がそこにあります。「豊かな人間性」は一朝一夕に身につくものではありません。様々なことに興味を持ち、多くの人と触れ合うことにより、身についていくものだと思います。

新入生の皆さん、大いに学んで下さい。そして、人間性豊かな医療人となって、平和な未来社会を築き上げてくれることを切に希っております。本日はおめでとう。

祝 辞

歯学部父兄会長 枝 松 満

奥羽大学に晴れてご入学された新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

また、ご列席のご父兄の皆様、お子様達のご入学、誠におめでとうございます。

歯学部、薬学部の父兄会を代表いたしまして、お祝いの言葉を申し上げます。

ただ今、新入生の皆さんは清水学長より、奥羽大学への入学を許可され、これからの大学生活に大きな期待と希望に胸を膨らませ、ハツラツとした気持ちでこの式に臨まれていることと思います。皆さんは、尊い命を守るという崇高な使命感を持ち歯科医学・薬科学の道を志し、入学試験の難関を見事突破され、この素晴らしい日を迎えられました。どうか、今日の日の感激を忘れることなく、新たな決意を持って初心を貫いて頂きたいと思います。

昨年度からより質の高い人材を育成するために、歯学部では、卒後1年間の臨床研修が始まりました。また、薬学部においても、6年制への移行とおおきな制度の変更が実施されました。薬の専門家として薬剤師は、医師・歯科医師・看護師などとともに患者の痛みや苦しみを受け止め、専門的な知識と技術を備えなければならない重要な使命があります。

ご父兄の皆様には、就学時間の増加に伴い、経済的・心理的負担も増え、大変かと思いますが、新入生の皆さんは、親の大きな期待に沿い、これから6年間、緑豊かな学び舎

で、奥羽大学建学の精神である「豊かな人間性」「国際性と主体性」を培い、質の高い医療人を目指して悔いのない充実した学生生活を送られる様、切に希望いたします。

最後になりますが、奥羽大学父兄会は、大学の整備発展に協力し、学生の修学と福祉に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的としております。

本校の更なる発展と、学生達全員の所期目的を達成するよう、皆様方のご協力の程をお願いいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

宣 誓

新入生代表 添 田 友 美

本日は、私達一同にとりまして生涯忘れることのできない大きな喜びであります。

ただ今、学長先生の告辞をいただき、大学生としての自覚と責任の重大さを強く認識いたしました。

私達入学生一同は、ひとときの喜びにおごることなく、一日一日の積み重ねを大切にしてい、建学の精神を尊び、学則を守り社会に役立つ人間を目指し、学業に専念することを誓います。



影山晴川育英奨学金授与式

この奨学金制度は、奥羽大学創立者の故影山四郎氏の遺族よりの寄付金を基金として平成2年3月30日に設立されたものであり、成績・人物ともに優秀な学生に奨学金が給付されるものである。

本年度は次の学生8名に対し、4月12日(木)歯学部、17日(火)薬学部の両日、学長室において清水秋雄学長から奨学金とメダルが授与された。

歯学部歯学科

第3学年	松本 直人	石川 昌弘
第4学年	熊野 毅	小松 紀子
第5学年	田中 克典	横山 絵里

薬学部薬学科

第3学年	渡部 綾	北見奈穂子
------	------	-------



教員任期制の導入

平成19年度より学校教育法および大学設置基準の改正により新教員組織制度が実施されることになりました。これに伴いまして歯学部では任期制を導入しました。この任期制については他の大学においても2, 3年前より色々と検討されていて職掌によって任期の異なるところもあり、また実施状態も様々ですが、本学部においては任用期間は同じとし、実施状態は全員の100%です。

任期制の狙いは、教員の資質を向上させて教育・研究・社会貢献等を進展させ、よりよい歯学部の環境を作っていくことです。

新教員の職掌は基礎系においては教授、准教授、助教、助手ですが、臨床系においては

講師はそのまま残して教授、准教授、講師、助教、助手となります。いずれの職掌においても再任期間があります。しかし、再任されるか、あるいは昇任されるかは個人の教育に対する熱意・誠実さ、研究業績および貢献度が評価されることとなります。また、これ以外に学生の模範となっているかどうかの態度・身だしなみ等も当然考慮されると思います。したがって、仮に授業あるいは診療開始の9時に分煙室で喫煙しているような教員がいるとしたならば、その教員は次回から必要とされません。

この任期制導入によって、歯学部がますます発展することを期待しています。

(天野 義和)

歯学部外部評価委員の实地視察

歯学部の第三者による外部評価が次のように実施された。(外部評価委員の都合により2回に分けて実施)

1. 実施日 平成19年4月14日(土)
10:00~13:00
平成19年4月19日(木)
10:00~15:00
2. 会場 歯学部附属病院棟5階
第4会議室
3. 外部評価委員
 - ・安井 利一 明海大学歯学部長
 - ・田上 順次 東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科副研究科長
 - ・住友 雅人 日本歯科大学
生命歯学部附属病院長
4. 学内出席者
学長・歯学部長・教員評価委員長・大学院研究科評価委員・附属病院長・学生部長・カリキュラム委員長・FD委員長・事務局長・学事部長・教務課長

〈資料〉

- (1) 平成18年度奥羽大学自己点検・自己評価報告書(平成14~18年度)
- (2) 平成19年度歯学部授業概要(シラバス)
- (3) 平成17年度授業の自己評価報告書

- (4) 「学生による授業評価」報告書
(平成13～17年度)
- (5) 奥羽大学歯学部教育・研究業績集
(平成14～18年度)

本学学内委員から事前配付資料を基に説明を行い、各々の項目について外部評価委員からの質疑に対し、学内委員が応答する形式で進行した。

なお外部評価委員より拝聴した「評価の総括」は以下のものであった。

〈総括〉

積極的に外部評価も導入し、自己評価におきましても問題点・課題の分析と認識が十分になされ、全学部的に組織として取り組まれていることは極めて高い評価をされるべきであります。自己点検においても、開かれた大学として強い意志を示されていることに対し、敬意を表して総括とさせていただきます。
(丸井 隆之)

新カリキュラムスタート

—歯科医療人間学の展望—

平成19年度の歯学部のカリキュラムに新たに加わった教科目に横割り教育としての統合型の講義と、奥羽大学の見学の精神である、「人間性豊かな医療人の育成」を反映させる教育プログラムとしての「歯科医療人間学」があります。これらの科目は6年一貫教育と奥羽大学歯学部の特色ある教育を行うために取り入れられたものです。特に「歯科医療人間学」は人間性を育む教育であり、人格を涵養する人間教育の一つとして位置づけ、歯科医学の知識や技能の修得以外に、人としての心を養い、幅広い人格を構築し、人間性豊かな医療人を育成し、社会人及び医療人として信頼される歯科医師を育てることを最大の目的としています。そのために歯科医療人間学では「態度教育」、「キャリアアップ（施設見学）学習」、「コミュニケーション技能」、「医学英語」を4つの柱として教育を行い、挨拶

の仕方や礼儀作法に始まり、早期に医療人、社会人としての職業倫理を持たせ、患者と歯科医師との意思の疎通を図るための正しい日本語を学び、さらにグローバル化に対応できる国際感覚を養い、将来国際的に活躍できる歯科医師になるための基盤を養おうとするものです。1年生から4年生を中心に全学年で学ぶカリキュラムになっています。

奥羽大学の特色ある教育プログラムである「歯科医療人間学」ですが、人間性豊かな歯科医師が育成され、地域の歯科医療の発展と向上に貢献し、そして日本の国民の健康増進に寄与することを望んでいます。

(横瀬 敏志)

新入生オリエンテーション

歯学部

平成19年度歯学部新入生オリエンテーションは、入学式の翌日の4月5日(木)の午後1時から5号館523教室で行われた。資料配付の後、天野歯学部長のあいさつで、新カリキュラムの骨子を説明され、人間性豊かな歯科医師を育成することを実践するために、特に本年度から歯科技術だけを学ぶのではなく、ひとの「こころ」を大切にする教育、すなわち歯科医療人間学を6年間通して実施するとのお話しがあった。引き続き、学年主任から通常4クラス編成であるが、本年の1年生からきめ細かな対応をするために5クラス編成とし、態度教育に実績のあるベテラン教員を配した旨の説明があった。休憩を挟んで学生生活上の諸注意や教務関係と続き、午後4時から5クラスに分かれて、自己紹介から始まった。日本全国から本学を目指して受験してくれ、そしてここに集合したことに感動し、これから6年間の舵取りの責任の重大さを再確認した。
(齋藤 高弘)

薬学部

平成19年度薬学部新入生オリエンテーションは、4月5日(木)13時より行われた。学年主任やクラス担任の紹介の後に、選択科目の履修や、カリキュラム、単位の修得について説

明が行われ、高校と大学の授業の違いやシステムの違いについても、理解する機会になったと思われる。

また、同日15時から、クラス別ガイダンスがクラス担任を中心に行われた。

(星 幸宏)

平成19年度在学生ガイダンス

歯学部

歯学部在学生に対する平成19年度ガイダンスは、4月2日(月)午前9時から記念講堂で開催された。歯学部長より大学教員組織の新制度の説明があり、現行の助教授・助手の位置づけが見直され、助教授は廃止され准教授、助教が新たに制定されたことをはじめ、19年度の教育・研究活動方針、特に本年度から歯学教育モデル・コア・カリキュラムの本格実施に伴う歯科医療人間学、統合教育、PBL・チュートリアル教育の実施に関するもののほか、セクシュアル・ハラスメント防止に関する訓辞があった。続いて病院長より歯科医師臨床研修の指導体制の充実と研修環境の整備、附属病院機能の充実などに関する訓辞があり、さらに、大学院研究科長による大学院の充実、社会人特別選抜制度の本格実施や、ティーチング・アシスタントに関する説明があった。最後に学生部長による、講義・実習の出席率向上に関する提言のあと、各学年主任の自己紹介があり、ガイダンスを終了した。

(鈴木 陽典)

薬学部

平成19年度の2、3年生を対象としたガイダンスは、授業の合間を使って、4月2日(月)、3日(火)に行われた。新しい学生証と昨年度の成績とともに、シラバスや時間割が配付され、学年主任及びクラス担任より、1年間の授業の進み方や、実習に対する連絡があった。特に3年生は、今年度、薬学応用科目による選択科目の履修登録があり、全員が希望する科目の登録を終えた。また、後期から配属となる、特別実習(卒業研究)についても説明があった。

(星 幸宏)

(歯) 新入生学外研修

平成19年度歯学部新入生学外研修は4月6日(金)・7日(土)の両日、福島県天栄村にあるブリティッシュヒルズ(BH)において実施された。午前9時に大学を出発し、約1時間30分後には開講式に始まり、施設の説明とマナー、館内見学、昼食と慌ただしい日程であった。午後はフェスティバルパーク天栄に場所を移し、引率した学年主任(齋藤高弘)、クラス担任(栗城源一、藤井史郎、加藤幸一、小畑良夫)、本学卒の臨床教員(永田智久、菅野勝也、高崎俊輔、松本一文)、職員、看護師そして学部長(天野義和)も参加してカウンセラー(車田文雄)によるエンカウンターを行い学生間の融和を図った。その後、今後の学生生活の過ごし方などについて5クラスに分かれてのミーティング、夕食後の自由時間には、施設内にあるおみやげ売り場など各種施設で和やかな雰囲気ですらひ、午後11時の就寝で1日が無事終了した。慌ただしい1日であったが外の景色はゆったりと流れ、不思議に異国に居るような錯覚を覚えた。

2日目はチェックアウト後、ネクタイを外し、スヌーカー(ビリヤードのようなもの)、アロマセラピー、サバイバルイングリッシュなどの6つのアクティビティコースに分かれて楽しんだ。この研修では、他人に嫌な思いをさせないための方法として、協調すること、そしてひとの意見に傾聴することなど、マナーの重要性を学んだ2日間であった。

(齋藤 高弘)



(薬)フレッシュマン・キャンプ

平成19年4月9日(月)、10日(火)の両日、薬学部新入学者を対象としたフレッシュマン・キャンプが行われた。本年度は新入学生83名が参加した。参加者達はまず、第2講義棟でキャリアガイダンスに参加し、薬剤師の先輩達の講演を聞いた後、2台のバスに分乗して裏磐梯猫魔ホテルへと向かった。昼食後のオリエンテーションを受け、アイスブレイキングやグループエンカウンターを通じて自己をアピールし、他の人たちの話に耳を傾けることを通じて、教員や学生同士の相互理解を深めた。はじめは緊張していた学生達も、人間ビンゴゲームなどで徐々に打ち解け始め、親睦会後のフリータイムの時間にはお互い小グループに別れて和気藹々と会話を交わしていた。2日目にはスモールグループディスカッションを行い、与えられたテーマをいかに時間内にまとめてゆくかに挑戦し、代表が最後に結論を発表する時点では堂々とした意見発表が行われるまでになった。

フレッシュマン・キャンプの目的である相互信頼、自己省察、学生生活上の不安の軽減、大学生活や自らの将来に向けての動機付けなど、今回も実りの多い2日間であった。

(小池 勇一)

**(薬)キャリアガイダンス**

4月13日(金)入学まもない新入生へ「薬学部新入生のためのキャリアナビゲーション」について、就職・採用アナリスト斎藤幸江講師

を迎え開催した。

講演は、「キャリア」って何だろうから、あなたなりの薬学の活かし方を探るまでの内容であった。多くの学生が参加し、真剣に聴き入っていた。終了後質問をする学生もみられた。今後、1年生には10月頃ガイダンスを企画している。
(安藤 政明)

第100回歯科医師国家試験

第100回歯科医師国家試験は2月10日(土)・11日(日)に行われ、その合格者が3月28日(水)に発表された。

本学の合格者は新卒者が67名、既卒者21名で、新卒者の合格率は67.0%であった。

学友会活動記録

○野球部

南東北大学野球 春季リーグ戦

平成19年4月15日(日)

小名浜球場

対宮城大学17-6 (5回コールド) 勝ち

平成19年4月21日(土)

温海球場

対会津大学9-6 (雨天コールド) 勝ち

○フットサル同好会

平成19年4月15日(日)

フットサルサイト郡山

牛角杯

第2位



野球部

大学院歯学研究科入学式

平成19年度大学院歯学研究科の入学式は、4月4日(水)に行われた。式では清水秋雄学長、天野義和歯学部長、鈴木康生大学院研究科長及び大学院教員の列席のなか、本年度から迎えることとなった社会人大学院生6名を含む、全10名の新入生の入学が許可された。続き、清水学長より在学中研鑽に励まれるようにとの告辞が述べられた。新入生には有能な研究指導者になることが期待される。

(白土 孝)

(大学院入学者)

加川千鶴世、金子 友紀、南條章太郎
和田 裕一、伊藤 榮一、岡 琢弓
小倉 章暢、小林 良誌、佐藤真理子
呂 正仁

大学院オリエンテーション

平成19年度の大学院歯学研究科のオリエンテーションが4月4日(水)の大学院入学式終了後、午後1時30分から附属病院棟5階の第1デモ室で開催されました。このオリエンテーションでは新入の1年生から4年生の全員を対象に、本年度の授業カリキュラムについての説明が研究科長からなされました。特に本年度入学の10名の大学院生に対しては歯学研究科における単位履修の方法や本年度のカリキュラム、授業の進め方等についてシラバスをもとに詳しい説明があり、19年度から新しくスタートした社会人特別選抜制度による入学の院生には履修要項も配布されました。なお、授業は各大学院生による選択科目の履修届け終了後の5月から開始されます。

また、このオリエンテーションでは「セクシュアル・ハラスメントの防止」について、全員にパンフレットを配布してセクシュアル・ハラスメントの説明とその防止の呼びかけがなされました。

(鈴木 康生)

附属病院

平成19年度登院式

歯学部5学年100名の登院式は、4月2日(月)臨床講義室で中葉事務長の司会により挙行された。はじめに天野歯学部長から、建学の精神に基づいて人間性豊かな歯科医師を目指し、実習に、勉学に励むよう訓辞があり、次いで清野病院長より、診療参加型臨床実習の心構えや、医療安全などに関する訓辞があった。

今年度登院した学生は、4学年で共用試験特別実施を受けており、臨床実習に臨む十分な意気込みが感じられた。なお、今年度の臨床実習から、PBL・チュートリアル教育、すなわち、少人数による問題解決型の実習を実施するが、指導スタッフはすでにシナリオの作成や、チューターとしての摺り合わせを行ってきたが、さらに、8月にはPBL・チュートリアル教育に関するワークショップを行う予定で、指導体制の充実に努めている。

この診療参加型臨床実習期間は15ヶ月間で平成20年6月末まで行われるが、実りの多い実習となることを期待するものである。

(鈴木 陽典)



歯科医師臨床研修開始式

平成19年度歯科医師臨床研修は、去る4月2日(月)に第1講義棟第2研修室にて開始式が挙行された。協力型施設へ出向研修するAプログラム22名(他大学1名)と本学附属病院において通年の研修を行うBプログラム28名(他大学1名)で本学卒業生48名、他大学卒業生2名の50名が本学附属病院臨床研修歯科医として登録された。

開始式では歯学部長より「患者さんを診る前日に予習を行い、前もって準備をするよう、また、疑問点があればどんどん指導医に質問し、毎回の診療でひとつずつ伸びていくよう。」また、病院長よりは学生の時と歯科医師となった今の状況の違う事の説明があり、身だしなみや言動などを注意するよう訓辞があった。

必修化されて2年目となる今年度は、臨床研修専任教員として歯科医師以前の「人」としての心構え、特に「ほう・れん・そう」:報告・連絡・相談を強調し、「時間厳守」の徹底を指導することが重要と考えている。「歯科医師」としては、各自の気力・能力・人格に合わせた指導を心がけ、歯科医としての自覚を覚醒させる事を通して患者さんの心を読み・掴めるような人間的充実を促す指導ができれば、と考えている。研修歯科医師にとって充実した研修期間となることを念じている。

(高録 伸郎)



校内バリアフリー工事完成

本学では、高齢者・身体に障がいをもつ方に配慮して、車椅子の人が一人で校内を移動できるようにバリアフリー化を推進してまいりましたが、このたび附属病院棟、中央棟、5号館でバリアフリー工事が平成19年3月28日に完成いたしました。附属病院棟1階玄関には、高齢者・身体障がい者等が円滑に利用できるように、1階玄関にスロープ・自動ドアを設置しました。中央棟では、図書館等の利用を踏まえ附属病院棟と中央棟との1階連絡通路にスロープ・自動ドアを設置し、また1階南側に多目的トイレを設置しました。5号館は施設の利用の利便性等を向上させるために入口にスロープ・自動ドアを設置し、1階南側に多目的トイレを備え、校内のバリアフリー施設が充実されました。

(坂本 新一)



5号館スロープ



中央棟病院スロープ

大学土曜日休業

平成19年4月1日(日)から大学が完全に、土曜日が休業となりました。それに伴い、歯学部、薬学部を含む事務局も土曜日は休業となります。

ただし、歯学部附属病院と図書館については、土曜日において次のとおり診療及び開館いたします。

【附属病院の土曜日の診療時間】

午前9時～午後3時

【図書館の土曜日の開館時間】

午前9時～午後4時

※8月1日(水)から8月31日(金)の土曜日については閉館いたします。

私が薦める一冊の本

『高松塚古墳は守れるか 保存科学の挑戦』

(毛利 和雄著、NHK ブックス)

高松塚古墳は約1300年前に築造された円墳で、古墳時代末期の比較的小さなごくありふれた古墳です。しかし、1972年の発掘調査によって極彩色の壁画が見つかり、「戦後最大の発見」として一躍有名になり、皆が興奮したことを私も覚えています。「飛鳥美人」と名付けられた4人の群像の色彩の鮮やかさはすばらしいものでした。その壁画が発見されてからわずか30年余りで、カビの大量発生によって消滅の危機に瀕し、ついに古墳から壁ごと運び出しての保存修理が試みられることになったことは、貴重な美術品の損失という点でも、また保存できなかったという日本の科学技術の限界という点でも残念な限りです。

本書では調査や修理を行う際の人間の不手際や、保存方法についての認識の違いなどについても指摘していますが、高温多湿な日本においてカビの発生を抑えることやその他の保存・修復作業がいかに困難かをきちんと説明しています。カビの増殖には水分、温度、酸素および栄養分が必要です。この4要素をうまくコントロールできればカビの増殖は抑

制できたと考えられますが、温度を下げれば結露し、乾燥すると壁面が土中の水分を吸い、また密閉系ではないため酸素除去もできないなど、苦労の様子が良くわかります。

高松塚古墳の石室の取り出しは本年4月～6月の計画で、「玄武」が描かれている北壁石や天井石の一部は4月現在取り外しが成功し、修理施設に運び込まれています。その反面解体作業中に残った壁面にさらにカビの増殖が認められるなど、作業が終了するまで気が抜けない状況です。その後10年掛かりで修理と恒久的な保存処理を行う計画ですが、私たちの貴重な遺産が無事保存され、後世に伝えられることを願っています。

千数百年さらには数千、数万年の時を経て徐々に劣化してきた文化遺産が、発見後あっという間にそれ以上の劣化を起こしてしまうことは、実際は世界中で起こっていることです。原因はさまざまですが、現在の科学技術では対処できないことがまだまだ多くあるということを実感させられます。医療分野においても「老化」という言葉は「治らない病気」を指す言葉のように思います。本書を通じて総合的な知識の大切さと、さらなる技術開発の必要性を感じ取っていただければ幸いです。

(岩間 正典)



余 滴

私の知り合いに、年間200本以上映画を見る男がいます。しかし、200本見るためには、毎週平均4本の映画を見なくてはなりません。ちなみに彼は仕事も妻子もちゃんと持っています。そのうえで映画のためにそれだけの時間と金と「気」を使うエネルギーには、驚嘆させられます。

そんな彼の足元にも及びませんが、私も映画は好きです。最近気になっているのはインド映画。単純明快なストーリー、豪華絢爛なダンス、女優は絶世の美女揃いということで世界的に高い人気があり、特に東南アジア、南アジア、西アジア、アフリカ諸国では、なくてはならない娯楽となっています。

そんなインド映画ですが、残念ながら日本では殆ど上映されません。DVDを入手して鑑賞するにしても日本語字幕が付いていることはまれ。従って、鑑賞するにあたっては登場人物の科白は基本的にすべてスキップ、意味をつかむことはあきらめることになるのですが、それでも結構楽しめるものです。このように、理解できない情報は先送りにして、あいまいなまま保留する能力というのは人間の知性の特徴らしいです。

この能力は学生も十分に持っているようです。彼らは、授業での黒板の板書や教科書に書いてある内容が全く理解できないという。授業中に出てくる学術用語はどんどんスキップ、理解の先送り能力が発揮されているようです。授業の全体像を掴むためにはそれも必要なかもしれません。ただ問題なのは、授業の後に振り返って、分からなかった事柄を理解しようとする努力が少なすぎることでしょうか。実際、日本の学生の校外学習時間は先進国中最低レベルだそうです。とは言え、OECDの1996年の報告では、日本人成人の科学に関する教養レベルも先進国中最低だそうです。私も教員として偉そうなことを言える立場ではないかも。これに関しては問題の先送りも大概にして対処しなくては。しかし、そのためには映画を年200本見る以上のエネルギーが必要なのでしょうね…。

(古山 昭)

同 窓 会

歯学部同窓会

私も今年で開業25年を迎えますが、文字通り「光陰如矢」でした。自分自身は歳を重ねたという自覚が殆どないのですが、開業当初小学生だった患者さんが、その子供さんの治療のために来院された折など、改めて歳月の流れを思い知らされる次第です。昭和56年当時、宮城県下には同窓生も僅かでしたが、現在では149名を数える大所帯に発展し、歯科医師会の各分野において活躍される先生方も多数おられます。

ところで、私の開業地は県北部の人口1万4千程の小さな町にありますが、歯科診療所は5軒、そこで私を含めて4名の同窓生が診療に携わっています。その中で代替わりということもあり、とうとう私が最古参の立場になってしまいました。顧みれば、理想と現実の狭間で悪戦苦闘し、無我夢中のうちに今日に至ったというのが、実感です。己の不勉強や未熟さを反省することも一再ならずありましたが、また一方で患者さんの言葉に励まされることも度々でした。昨年のものでしたが、ある年配の女性から、その日の診療が終わった時「私にはある悩みがありましたが、先生の所に伺って治療をして頂いてからは気持ちが軽くなり、晴ればれとして来ました。先生のお人柄のせいなのでしょうね。」とお礼を述べられました。全く予想だにしない言葉でしたので、感激すると同時に戸惑いを覚えました。果たして、その言葉に値するだけのことを自分が為し得たのだろうか。歯科診療は、フィジカル面においては無論のことメンタル面においても十分に配慮しつつ、為されなければならないことを再認識しました。

団塊の世代の一員である私は、メタボリック・シンドロームを抱えながら気力と体力が続く限り、また患者さんからの要望がある限り、今後共地域医療に微力を尽くして参りたいと考えております。

(宮城県同窓会副会長 田中 正孝)

同窓生のひろば

文学部同窓会

〈会計より会費納入のお願い〉

執行部会計係から、今年卒業された第15期生のみなさんへお願いです。同窓会費の納入を近日中にお願ひいたします。同窓会に関する事、納入方法等は、卒業式終了時にお配りした資料の中に明記されています。本会へのご理解をいただき是非ご協力下さい。また、15期生以外でまだ会費を納入されていない方も、同窓会ホームページ [http://ohu-l\(エル\).net](http://ohu-l(エル).net) もしくは Google「奥羽大学文学部同窓会」を検索、トップ>MEMBER'S ROOM「E-Mail」で送金方法をお尋ねになり、会費納入をお願いします。またホームページでは住所変更登録も可能となっております。セキュリティシステムを完備していますので、こちら是非ご利用下さいますようお願いいたします。

(同窓会長 松尾 毅)



佐藤 純
(歯学部12期生)

こんにちは。12期卒業の佐藤 純です。

私達は平成元年に最後の東北歯科大生として卒業致しました。

同年文学部を増設したことにより年度の変わる4月より大学名は奥羽大学へと変わり、ご存じの通り現在では文学部の廃止に伴い薬学部が新設され、新生奥羽大学としてスタートしております。

振り返ればあっという間に過ぎ去った18年間でしたが、その間大小様々な出来事や変化があり、その激動の中を夢中で生きてきたように思います。最近の大きな変化は研修医制度が本格的にスタートしたことと、大学の教員としての責任と自覚を強化する意味で任期制が導入されたことでしょう。

その中でも研修医制度の本格化に伴い、同窓会の諸先生方の存在は今まで以上に大きな役割を担うようになりました。研修医の協力型研修施設として後輩のためにクリニックを提供して下さる諸先輩の存在は、私達大学の内部にいる同窓として、とても心強く、これからますます、多くの協力をお願いしなければならぬ立場としても、とても力強い味方となっております。

私達はここ奥羽大学を母体とし、そこを卒業したいわば兄弟姉妹のようなものだと私は感じております。自覚の有無に関わらず、それぞれが様々な立場で大学の名前を背負った存在として、様々な地域で貢献し活躍している仲間だと思うからです。歯科界はますます厳しい環境を余儀なくされる中、大学で活躍する我々にとりまして、本当の意味でその真価が、任期制というシステムの導入により、問われるようになりました。

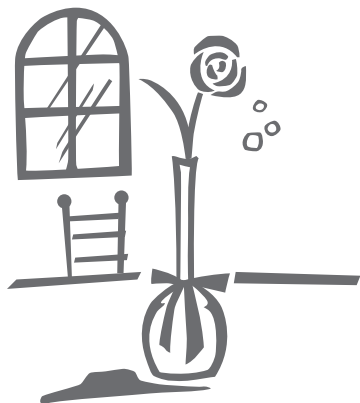
いずれにしても、今まで以上に後輩のため、また大学のために私達は真剣に取り組まなけ



ればならない存在となったことは間違いありません。しかし、そのことが結果として私達に返ってくる有形無形の利益あるいは幸せに繋がるのみならず、大学の活性化や質の向上に繋がって行くことは間違いないと信じております。最近そんな風に切に感じずにはいられません。

本当に毎日が真剣勝負で生きているというのが多くの先生方の本音ではないでしょうか。

どんな立場であれ、同窓という共通の繋がりを大切にしながら、これからも後輩のため、大学のため、そして自分たちのために頑張っ



森本 康弘

(仏文科10期生)

高校・大学進学があたりまえとなっている現代において、自分の将来の目標に向けて学習し、修得したことを生かして生活をしている人間はどのくらいいるだろうか？それが正しいことで、すべての人間がすべきことだとは言わないが、先に見据えるものを早い段階で見つけることができるというのは、とてもラッキーなことであると思う。

私の話をさせてもらおうと、好きだった英語を勉強すべく高校では英語科に入り、選択授業で出会ったフランス語に底知れない魅力を感じ、奥羽大学文学部フランス語フランス文学科に入学した。「好きこそものの上手なれ」とはよく言ったもので、フランス語が好きだった自分にとってフランス語の学習は楽しいものであったし、尽きること無く興味がわいてきた。ただそれでも4年間の日本での学習で修得できるほど簡単なものではない。そんな自分を最後まで後押ししてくれたのは「ニューカレドニア・フランス語海外研修」体験である。つたないフランス語でコミュニケーションを取ろうとした3週間が自分を語学の面のみならず、見識の広さに関して大きく成長させた。この経験が大学卒業後のフランス留学を決意させたいちばん大きな事由である。大学で得た知識をベースとしてパリでの留学生活を送ってきたのだが、前述したように、好きだからこそフランス語を日々14時間勉強し、日本語との接触を断ち、身につけることができたのである。言語を操り、人々とコミュニケーションを取ることが自分の知識・見識に幅を持たせる。

帰国後は、フランス人外交官秘書、フランス語講師を経て、現在は旅行代理店に勤務しながら、休日に通訳／翻訳をしている。好きなことを見つけ、それを目標に突き進む事が、自分を更なる高みへと導いてくれる。今は自分のスキルアップが人生の楽しみの一つである。

指定職紹介



学 長

清水 秋雄

このたび学長再任の命を受けました。引き続きよろしくお願いいたします。

去る3月、本学文学部の最終学年生を全員社会に送り出し、その廃止に伴い本年度から歯学部、薬学部の医療系複合大学として歩むことになりました。

教育界のひとつの変革は、本年4月から大学人の職階が、教授、助教授、(講師)、助手から、教授、准教授、(講師)、助教、助手に変わりましたが、教授～助教の職務内容は教育、研究、研究指導と同じになったことです。本学歯学部ではさらなる活性化のため教員の任期制を採ることになりました。この制度を採る大学は増えてきましたが、それには所定の任用期間ごとの評価が伴い、各々が職種に応じた業績を挙げなければなりません。

社会では既に評価社会に突入し、企業、教育、医療界などの分野にも浸透しています。大学においては大学の特色ある発展、質の保証された教育、国際的に通用する研究など画的に求められ、その評価には大学全般に亘り自己点検自己評価を行い、第三者評価を受けることとなります。それに要する職務・事務量の増大は否めません。さらに医療系大学では在学中に全国規模の共用試験が行われ、その準備・実施には、多くの時間とマンパワーが必要となり、教職員にとってかなりの努力・労力を要します。

以前の大学人は自由業的傾向の職種でしたが、今や変革期を経て自己点検・第三者評価が伴う良質の教育研究の実施期に移行しています。教職員がすべてを個人で完璧に全うするには神技的能力を要しますが、それを人わが的能力で行うには、個人、組織、設備等の能力・性能をフルに生かしシステムティックな作業効率のよい方策が必要であります。

教職員各位のご支援、ご協力を切にお願いいたします。



薬学部長

永井 正博

このたび、はからずも薬学部長に再任の命を受けました。よろしくお願いいたします。

薬学部は完成年度が終了するまで4年間のちょうど中間点にあります。今年度19年度中には奥羽大の薬学教育の骨格ができてしまうだろうと思われ、まことに重要な時期に当たります。薬学部では、まず第1段階として、学部開設時の地域の期待に応えられるような優れた薬剤師養成機関になるべく、教職員一丸になって当たりたいと思います。

今年度は3年生が在籍することになりますが、この1年間は薬学教育の中で、応用性が比較的高い科目－衛生化学、薬理学、薬剤学・調剤学関係－の授業が開始あるいは増強されます。この成果は国試結果に直結します。また、来年度実施される4年制教育実務実習に向けて、細部にわたる具体的準備が必要です。

6年制教育の学生が1、2年生に在籍することになりますが、進級をすればするほど、基礎学力の必要性がわかるはずにて、学生諸君にオフィス・アワーやこの連休明けから開始される「学習支援プラン」の活用を呼びかけます。

他方、薬学部を取り巻く社会的環境は、この1年半の間に大きな変化をとげつつあり、薬学部のかかなりの数が厳しい状況に置かれていることは新聞報道などでご承知のことかと思えます。6年制教育への移行、薬学部入学定員の拡大、いわゆる大学全入時代の到来などです。この難しい状況に立ち向かうべく、大学と力を合わせていきたいと考えています。

歯学部諸先輩方のご指導と温かいご助言をお願いいたします。



薬学部学生部長
野島 浩史

今年4月1日(日)付けて薬学部学生部長の要職を拝命しました。薬学教育が変革の真っ只中にあるなかで、当初はこの要職につくことの責任の重さに戸惑いがありました。しかし、普段から物事をあまり複雑には考えない(たぶん考えられない)性格と、いつも「正直に、そして地道にやっていたら何とかなるだろう」の精神で生きてきましたから、これからも肩肘張らずに地のままでやって行けばよいと気持ちを切り替えました。

この4月に本学薬学部1期生(薬学部4年制)が新3年生に進級しました。学生部の役割を考えたときに、教務関係の観点からは、薬剤師国家試験の対策に本腰を入れなければなりませんし、卒業後の希望進路に応じたアドバンス教育もしなければなりません。また、福利厚生関係(学生へのサービス)の観点からは、学生にキャンパスライフを楽しんでもらうために何をすべきかを、事務サイドに提言していく必要もあります。いまの学生に対しては、飴とムチではなく、甘い飴と苦い飴の作戦で対応する知恵の必要性を感じています。いずれにしても、薬学部1期生を当初の予定通りに社会に送り出すためには、今やらなければならないことを着実に実行していくこと以外にはありません。

私の研究室の窓からは、薬草園を望むことができます。毎日密かに自分の箱庭として楽しんでます。散りはじめた桜と入れ替わりに、これから種々の薬草たちがいろいろな色と形の花を咲かせるはずです。そんなふうに学生たち一人ひとりが自分らしい花を咲かせることができるように支援をすることが、私たちの役目であると自覚しています。その責務を果たすためのご協力を関係各位の皆様にもお願い申し上げます。



図書館長
安藤 勝

このたび図書館長を拝命いたしました。図らずも都合9年目の就任になりますが、あらためてその責任の重大さをひしひしと感じております。微力ではありますが、初心の気持ちで本学の発展と図書館の充実のために力を尽くしたいと思っております。皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

「図書館は大学における知の拠点であり、心臓部である」、「図書館をみればその大学の内実がわかる」とよくいわれます。大変含蓄のあることばです。私にとっては心が重くなります。図書館の機能と活動の両面が問われるからです。しかし、将来にわたって図書館の機能を十全に発揮できるシステムを構築していくことこそ、われわれに課せられた宿題であるといえましょう。

最近の図書館は大きく変化しております。いうまでもなく紙媒体からの脱却です。図書館資料の蓄積、組織化、提供という基本的な機能に変わりはありませんが、変動の激しい情報化社会の中にあることを再認識する必要があります。10年前の図書館サービスと比べればその変化は明らかです。学術雑誌の多くは電子化され、インターネットにより世界中の最新情報にアクセスができ、学術情報を広く求めることが可能です。

しかし、それらの利用に伴う環境整備は如何でしょうか。学生・教職員が十分に利用できるよう、快適な場所を作り上げていくことが要請されます。また、今年からの文学部廃止は蔵書構成に変化をもたらすでしょう。人文・社会科学系の資料についても意を配る必要があります。

図書館は利用されてこそ図書館に成ります。どうぞご意見をお寄せください。

新任教授紹介



歯学部 英語
藤井 史郎

奥羽大学文学部に10年間お世話になり、平成19年4月1日(日)付けをもって歯学部へ新規採用していただきました。担当は英語全般です。2年前より文学部からの兼担として、歯学部の英語Ⅰ、英語Ⅱを担当してきました。それゆえ英語の授業自体に関しては特に不安を感じることはありません。それどころか楽しみにしているほどです。しかし、新規に採用された者として、今までのことは思い出にしまいこみ、これからの毎日を全く新たなものとして担当科目の運営、学生の指導に精進したいと決意を新たにしております。

私は、平成19年度こそ奥羽大学歯学部にとって正念場の時と捉えております。そのために歯科医療人間学という新たな科目が設置され1年生から4年生までの——形態の違いはありますがもちろん5年生、6年生も含まれます——カリキュラムに有機的な関連性を持たすべく努力がなされてきています。この歯科医療人間学での私の担当は医学英語のユニットです。まだ手探り状態ではあるのですが、回を重ねるごとに少しずつ自分のなすべきことが見えつつあるように感じています。浅学非才の私ではありますが、英語を通じてこの新科目に少しでも協力できるならばこれにまさる喜びはありません。

私は歯学部1年3組(20名)のクラス担任をしています。臨床系の先生にもクラス担任補助をお願いしており、2人で一致協力し3組の学生指導を密なものにしたいと考えています。また引き続き学友会の顧問も依頼されています。学友会員の皆さんと共に学長杯球技大会そして奥羽祭を盛り立て、これらの学校行事を通じ少しでも多くの奥羽大生の皆さんと交流できることを楽しみにしています。



歯学部 文学
加藤 幸一

4月1日(日)付けで歯学部教授を拝命いたしました。専門は、日本の古典文学、とくに平安時代の和歌文学の研究であります。昨年度まで18年間文学部に籍を置き日本の古典文学を教えておりましたが、今年度からは歯科医療人間学の中のコミュニケーション技能を担当いたします。1年次から4年次まで受け持ち、4年をかけて医療現場におけるコミュニケーションについて指導してゆきます。

現在、医療現場ではコミュニケーションの力が重視されています。医師と患者の間だけでなく様々な場面において、円滑なコミュニケーションによって信頼関係を築くことが求められているのです。しかし、コミュニケーションの技能は一朝一夕に身に付くものではありません。日本語についての深い理解、幅広い教養、人に対する思いやりの心など、まさに本学の建学の理念である「豊かな人間性」に支えられて身につくものだと思います。技能を伝授するだけでなく、文学作品を読んで日本語に対する感覚を磨くとともに様々な角度から物事を見る目を養いながら、学生たち自身に、信頼関係を築くコミュニケーションとは何かを考えさせてゆきたいと思っています。

文学部における経験を生かしながらも、常に医療との接点を探り新しい授業方法をも取り入れて、学生の興味をかきたてるよう工夫してゆきたいと考えております。微力ながら、歯学部の教育に貢献できるよう全力を尽くす所存であります。何とぞよろしくご指導のほどお願いいたします。



歯学部 口腔外科学
高田 訓

本年度より教授に昇任いたしました。自己紹介を兼ねて一言ご挨拶申し上げます。

私は北海道札幌月寒高校を卒業し、1983年に東北歯科大学に入学、卒業は1989年で12期生になります。この年は平成元年、東北歯科大学が新しく奥羽大学に生まれ変わった年です。学生時代はラグビー部に所属し、下宿でお世話になっていました。どこに居ても学友達は同じ志を持ち、新年度を迎える度に歯科医師への臨場感と期待、不安を感じ、先輩の話すことはすべてが教えでした。勿論、容赦ない厳しさや時折感じる不条理もありましたが、歯科医師への希望と教壇に立つ教授陣への憧れの前では苦になりませんでした。

奥羽大学大学院を経て助手、講師、助教授を経験しましたが、実は未だになぜ口腔外科を選んだか、よく憶えていません。ただ、この大学には、どこに行っても優しく厳しく愛情を持って接し、面倒をみてくれる先輩方がいました。当時の口腔外科には、そんな先輩が少しだけ多かったのかもしれない。やがては地元に戻ることや病院の就職なども考えましたが、結局、先輩や後輩、職員の方々やこの病院が好きで、何より人に教える快感と毎年少しずつ威張れる後輩達が増える医局や講座の居心地の良さ、そして一番に母校が好きだからこそ、ここまで来ました。

教授という肩書きが何を意味し、どうあるべきかは未だわからず未知の世界です。しかし、母校の為にやるべきことが変わるとは思いません。奥羽大学歯学部の出身なら安心して任せられると言った声が至る所から聞こえてくるように、母校の学生を育てたいと思います。何卒、よろしく願い申し上げます。



歯学部 口腔外科学
山崎 信也

歯科麻酔学を志しております山崎信也と申します。関係各所の皆様には、常日頃より大変お世話になり、本当に心より感謝申し上げます。私は昭和37年にサラリーマンの長男として仙台に生まれ、昭和56年に仙台三高を卒業しました。勉強嫌いだったのですが1年間浪人をして、何とか11期生として東北歯科大学に入学しました。昭和63年に国家試験合格後、直ちに本学歯科麻酔学講座（高北義彦教授）に入局致しました。翌年から1年間、福島医大麻酔科（奥秋 晟教授）で研修し、平成2年から本学大学院で歯科麻酔学を専攻しました。大学院3年目に UCLA Medical Center 麻酔科に1年間留学させて頂き、平成6年に大学院卒業後、本学歯科麻酔学講座助手に採用して頂きました。その後、講師、助教授、病院教授を経て本年度より教授を拝命致しましたが、研究も教育も臨床も、いずれも大好きですが、それ以外の趣味はボディビルです。子供は6人いますが、妻は1人だけです。

今まで、国内外の多くの大学や施設を見聞し、多くの方々と接してきました。初めは他施設の良いところばかりが目についたものでしたが、次第に奥羽大学の素晴らしい点ばかりがよく見えてくるようになりました。ここには草木が豊かに育つ良質の土壤があります。勉強嫌いだったはずの私は、奥羽大学を拠点として学んでいくうちに、いつの間にか理解することの楽しさを覚え、気が付くと学ぶことを職業に選んでいました。この奥羽大学の豊かな人間性を育む土壤を皆様と共に耕し、協力して後世に広げていかなければならないと考えております。まだまだ若輩者ではございますが、今後とも何卒宜しく御指導の程お願い申し上げます。



歯学部 成長発育歯学
福井 和徳

本学を卒業した半年後の秋晴れの朝、歯学部助手に採用していただき、20年が経過しました。この間、歯科矯正学における教育、臨床、研究について多くの方々から温かいご指導を受けながら研鑽を積んで参りましたが、この4月より成長発育歯学講座の教授を担当することとなりました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨今、国レベルでは安倍内閣が掲げる重要課題「教育再生」に向けた議論が活発に行われ、教育の基本に遡った改革案がまとめられています。このような趨勢の中、本学においても奥羽大学に相応しい教育体制の改革が進められ、より良い大学への構築に全教員が日々真摯に取り組んでいる状況にあります。これより教育目標については、今まで以上に学生に対し情熱と誠意そして愛情を持った指導を遵守し、人間性豊かな歯科医師の養成に尽くします。診療に関しては医療の高度化に伴い、より良い歯科医療を地域へ提供できるよう心がけ、その人材育成に務めます。また、県内外との医療連携を緊密に図り、地域における難症例受入の機関として貢献できるよう努力していきます。研究面においては、顎変形症・唇顎口蓋裂症例の術後評価、インプラント治療などの包括的アプローチの評価、成長発育期に適用した機能的矯正装置の全身への効果、審美および咬合を絡めた矯正治療のアウトカム評価等を中心に歯科矯正学の向上に努めます。

これから与えられた職責を充分果たすべく限られた任期を精一杯努めたいと思いますので、一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



歯学部 口腔機能分子生物学
栗城 源一

この度、口腔機能分子生物学講座（生物学分野）の教授を拝命いたしました。生物学分野では4代目となりますが、本年から施行の新カリキュラム内での重責を痛感しております。旧来にも増して、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新カリキュラムでの生物学は、幅広い教養とともに生命科学系の専門基礎科目を履修するための基礎学力養成を第1義的に求められております。しかし、高校での生物未履修者への対策、教養系教育における他の教科および専門基礎科目との密接な連携の構築など重要な課題がまだ山積みしていますので、議論をさらに深めて検討しなければなりません。

私の研究テーマである土壌動物の生態研究は、まもなく40年になります。本学に奉職してから、歯学とは関連性のうすい研究を継続できたことは、大学および法人の寛大な処遇によるものと深く感謝しております。おかげさまで、それまで注目されることのなかった土壌動物は、落葉落枝の分解に大きく関与し生態系で極めて重要な役割を担っていること、さらには、その群組成は環境の変化を鋭敏に反映して変化することから、土壌環境の指標動物としての高い有効性を持つことが認められてきました。今後は、まずはササラダニによる湿原環境のモニタリング法の確立を目指していきたいと考えております。

存在は地味でも極めて重要な役割を担っている土壌動物の生き様は、私にとって貴重な教訓となりました。自然から得たこの教訓は人間社会にも通じるものがありますので、学生との交流から人間性豊かな歯科医の育成に貢献できれば、まさに教師冥利に尽きるものとなりましょう。

平成19年度教学関係人事

〈歯学部講座主任〉

歯科保存学	横瀬 敏志
歯科補綴学	清野 和夫
診療科学	齋藤 高弘
口腔外科学	大野 敬
成長発育歯学	鈴木 康生
放射線診断学	鈴木 陽典
生体構造学	伊藤 一三
口腔病態解析制御学	福岡 章
口腔機能分子生物学	丸井 隆之
生体材料学	長山 克也
口腔衛生学	廣瀬 公治

〈歯学部学年主任及びクラス担任〉

学年	主任	クラス担任
1	齋藤 高弘	齋栗 藤加小 藤城 井藤畑 高源 史幸良 弘一 郎一夫
2	丸井 隆之	丸宗 斉伊 井形 藤原 隆芳 禎 之英 博雄
3	浜田 節男	浜相 中石 田澤 江田 節徳 次喜 男久 郎紀
4	横瀬 敏志	横瀬 菊松 瀬澤 井山 敏洋 徹仁 志子 哉昭
5	鈴木 陽典	鈴木 釜島竹 木田 村内 陽 和 典朗 宏操
6	大野 敬	大清 廣清 野浦 瀬野木 有公 晃史 敬祐 治孝 彦樹 保仁 俊司 山橋 田東 英博

〈薬学部学年主任及びクラス担任〉

学年	主任	クラス担任
1	野沢 幸平	柏野 志小 木沢 村池 良幸 紀勇 友平 子一
2	上野 明道	藤小 岩堀 井谷 木江 祐政 和 一晴 夫均
		上伊 曾山 野藤 根本 明頼 孝正 道位 範雅
3	岩間 正典	岩押 宮荒 間尾 嶋井 正 勝裕 典茂 春一郎

平成19年度客員教授・非常勤講師

〈歯学部〉

客員教授

●新任

オーラルメディシン 山根 源之

●継続

保存修復学 田上 順次
 有床義歯学Ⅱ 石橋 寛二
 口腔病理学／臨床総合 二階 宏昌
 口腔生化学 山田 正
 口腔生理学 山本 隆
 オーラルメディシン 川島 康
 臨床歯科学 糸瀬 正通

非常勤講師

●新任

冠橋義歯学実習 白井やよい
 歯科矯正学 三宅 弘直
 口腔解剖学／実習 田原 充
 オーラルメディシン 森本 光明
 〃 小澤 靖弘
 〃 渡邊 裕
 歯科医療人間学 吉田いくよ

歯科医療人間学
法医学
倫理学

●継続

美術学
解剖学／実習
口腔組織学実習
口腔病理学
口腔細菌学実習
歯科薬理学／実習

〃
〃

口腔生化学
口腔生理学実習
生体材料・歯科材料学実習
生体材料・歯科材料学実習
生体材料・歯科材料学実習
口腔衛生学実習

〃
〃

社会歯科学Ⅰ／Ⅱ
口腔衛生学実習
保存修復学実習

〃
〃

保存修復学
歯周病学実習

〃
〃

歯内療法学実習

〃
〃

冠橋義歯学実習
〃
〃

冠橋義歯学Ⅱ
有床義歯学Ⅰ・Ⅱ実習

有床義歯学Ⅰ
臨床実習(シミュレーション)

〃
〃

鈴木俊子
都築民幸
昆野伸幸

新井浩
土井美德

佐藤功二
大桶志延

高田隆
泉福英信

沼倉博人
高橋顕仁

小川勝弘
石井哲郎

辻満
熊倉学

覚本嘉美
泉俊郎

中川正晴
大澤武雄

菊地正樹
天野美榮子

相馬親良
松岡哲明

田島直人
塩崎洋堂

佐藤正文
岡村平八郎

関戸幹夫
津田忠政

佐藤克
山崎信夫

山田眞義
加藤崇

吉田展也
小野崎裕

赤川安正
浅井政一

井上昌幸
菊池利也

森川公博
佐熊研

高齢者歯科学
口腔外科学Ⅱ
口腔外科学／臨床実習

〃
小児歯科学実習

〃
〃

小児歯科学／臨床実習
歯科矯正学実習

〃
〃

放射線診断学／臨床実習

〃
歯科放射線学／臨床実習

〃
オーラルメディシン

〈薬学部〉

非常勤講師

●新任

法学
英語Ⅱ
薬学英語A
臨床検査学

阪口英夫
椎木一雄
宮島久

澤裕一郎
國崎幸史

金子知弘
原憲司

鎌田寄仁
荻野久

田所生利
大原尚明

笹野高嗣
丸茂町子

櫻井孝
小林富貴子

外木守雄

土井美德
秋間聖代
腹部千代子
橋本勝一

●継続

倫理学
科学と哲学
現代経済論
西欧文化論

くすりと法論
日本語表現論

英語Ⅰ
英語A

英語B
情報科学

情報科学実習
有機化学Ⅰ

有機化学Ⅱ
有機化学Ⅲ

薬品製造学実習

末永恵子
小笠原正薫
小沼宗一
中村青生

小松進
佐藤宣男

中野富士雄
福富靖之

〃
加藤勝洋

〃
加藤國基

〃
〃

〃

人 事			
〈指定職選任〉			
清水 秋雄	学 長	4月1日付	
永井 正博	薬学部長	〃	
野島 浩史	薬学部学生部長	〃	
安藤 勝	図書館長	〃	
深澤 行雄	事務局長	〃	
〈昇任〉			
嶋倉 道郎	旧 教授 歯科補綴学	新 大学院教授 大学院	4月1日付
新田 敏正	教授・口腔病態 解析制御学	〃	〃
高田 訓	助 教授 口腔外科学	教 授 口腔外科学	〃
山崎 信也	〃	〃	〃
福井 和徳	助 教授 成長発育歯学	教 授 成長発育歯学	〃
栗城 源一	助教授・口腔機 能分子生物学	教授・口腔機 能分子生物学	〃
杉田 俊博	病院助教授 附属病院	臨床教授 臨 床	〃
金 秀樹	講 師 口腔外科学	准 教授 口腔外科学	〃
川合 宏仁	〃	〃	〃
菊井 徹哉	講 師 歯科保存学	准 教授 歯科保存学	〃
齊藤 博	講 師 生体構造学	准 教授 生体構造学	〃
岡田 英俊	講 師 生体材料学	准 教授 生体材料学	〃
車田 文雄	講 師 口腔衛生学	准 教授 口腔衛生学	〃
今井 啓全	助 手 歯科保存学	講 師 歯科保存学	〃
洪澤 洋子	助 手 口腔外科学	講 師 口腔外科学	〃
小板橋 勉	〃	〃	〃
松山 仁昭	助 手 成長発育歯学	講 師 成長発育歯学	〃
相澤 徳久	助 手 成長発育歯学	講 師 成長発育歯学	4月1日付
岩崎みどり	助 手 放射線診断学	講 師 放射線診断学	〃
竜 立雄	病院助 手 附属病院	講 師 成長発育歯学	〃
田代 俊男	助 手 診療科学	講 師 臨 床	〃
森下 浩江	助 手 歯科保存学	〃	〃
佐藤 穂子	〃	〃	〃
高録 伸郎	〃	〃	〃
五月女 稔	〃	〃	〃
中島 大誠	〃	〃	〃
山崎 隆史	〃	〃	〃
安達 仁	病院助 手 附属病院	〃	〃
築館 勇樹	〃	〃	〃
宇佐美晶信	助 手 生体構造学	助 教 生体構造学	〃
茂呂祐利子	〃	〃	〃
櫻井 裕子	助手・口腔病 態解析制御学	助教・口腔病 態解析制御学	〃
菅島 正栄	〃	〃	〃
大須賀謙二	助手・口腔機 能分子生物学	助教・口腔機 能分子生物学	〃
前田 豊信	〃	〃	〃
古山 昭	〃	〃	〃
大橋 明石	助 手 口腔衛生学	助 教 口腔衛生学	〃
長岡 正博	〃	〃	〃
中 貴弘	助 手 歯科保存学	助 教 歯科保存学	〃

濱田 智弘	病院助手 附属病院	助 教 口腔外科学	4月1日付	土田 雄太	助 臨	手 床	4月1日付
林 由季	〃	〃	〃	宮内 讓	〃	〃	〃
中村 真治	〃	助 教 成長発育歯学	〃	山内 貴子	〃	〃	〃
〈兼 任〉				渡辺 広一	〃	〃	〃
山森 徹雄	准 教 授 歯科補綴学	臨 床 教 授 臨 床	4月1日付	渡辺 正博	〃	〃	〃
清野 晃孝	准 教 授 診療科学	〃	〃	藤井 史郎	教 英	授 語	〃
〈異 動〉				加藤 幸一	教 文	授 学	〃
鎌田 政善	旧 教 授 診療科学	新 教 授 歯科補綴学	4月1日付	〈異 動〉	旧 事 務 職 員 学事部(歯学部)	新 事 務 職 員 部	3月15日付
松原 宏明	旧 講 師 教職課程(文)	新 准 教 授 心理学(歯)	4月1日付	菊池美奈子	〃	〃	3月26日付
影山 勝保	助 診 療 科 学	講 師 歯科補綴学	〃	箱崎かおり	事 務 職 員 病院事務部	〃	3月26日付
〈任 用〉				佐藤 夏美	事 務 職 員 総 務 部	事 務 職 員 病院事務部	〃
荒木田安弘		助 手 歯科補綴学	4月1日付	〈昇 格〉	旧 総 務 係 長 部	新 総 務 課 長 部	4月1日付
大植 一樹		助 手 成長発育歯学	〃	影山 千容	〃	〃	〃
大貫 武司		助 手 歯科補綴学	〃	佐藤 安宏	〃	総 務 課 長 補 佐 総 務 部	〃
川原 一郎		助 手 口腔外科学	〃	谷代 尚人	主 任 学事部(歯学部)	学 生 係 長 学事部(歯学部)	〃
山田 聡		助 手 歯科補綴学	〃	〈異 動〉	旧 事 務 職 員 学事部(薬学部)	新 事 務 職 員 病院事務部	4月1日付
鄧 雪		助 手・口腔病 態解析制御学	〃	佐藤 道子	〃	〃	〃
猪狩 道代		助 臨	〃	添田 恵里	事 務 職 員 総 務 部	〃	〃
植木 隆一		〃	〃	慶 弔			
太田 麻生		〃	〃	〈結 婚〉	おめでとうございます。		
熊野 仁也		〃	〃	○川原 一郎	歯学部 助 手	4月3日	
小林 克紀		〃	〃	○阿部 賢志	薬学部 講 師	4月15日	
坂卷 徹		〃	〃	〈訃 報〉	謹んでお悔やみ申し上げます。		
佐藤 潤		〃	〃	●学事部 佐藤 和義	実父 佐藤 儀一 殿 (79歳) 4月19日		
佐野しおり		〃	〃	●歯学部 松原 宏明	実母 松原喜久子 殿 (74歳) 4月24日		
篠島 美香		〃	〃				
篠田 奈々		〃	〃				
高橋 進也		〃	〃				

郡山自転車ロマン紀行 (連載)

郡山を自転車で走ってみませんか。意外なところで意外な発見があります。なぜ自転車で、とお思いでしょう。スローライフ、遊び心、体力増強、好奇心…理由はいくらでもあります。何よりも自転車を走らせたとき、体に受けるあの自然の風、いいですね。さあ、これから毎回皆さんをあちらこちらへご案内します。どこへ行くかは自転車のみぞ知る、ということにしておきましょう。車に気をつけて、出発OK。

〈第1回 桜を求めて〉

東京では葉桜でも、郡山ではこれからが本番。山里に咲くあの桜、この桜が脳裏に浮かぶ。今年はどこから見ていこうか。

私が郡山へ赴任した当初、開成山公園は通勤途上のため、この時期は毎日桜浴をすることができた。桜浴？このことばは辞書にはない。つい造語として使いたくなる。やわらかい春の陽光と花吹雪のトンネルが、春の到来を実感させてくれる。

「魚は水を忘れ、鳥は風を知らず」(『葉根譚』)。桜は桜を知らず、無心に咲いている。なるほど、これが天然の妙機というものであろう。同書にこういうものもある。「花は五分咲きを見、酒はほろ酔いぐらい飲む。その中にこの上もなくすばらしい趣がある」。これには異論の人もあろう。散り際とか、もっと飲ませろとか。ともあれ、良くも悪くも桜は桜だ。

郡山地方の桜の横綱は、何と言っても「滝桜」だ。樹齢千年とか。あまりにもその存在が大きすぎてこれは別格。逢瀬公園の桜も見



逢瀬公園の桜

事だ。その名も「さくらの広場」という丘がある。よちよち歩きの子どもを見守る母親、おにぎりを食べている老夫婦、車座になっている若いグループ。みんないい顔をしている。日本画のモチーフになりそうな風景がある。五百淵公園では、湖面に漂う花びらが詩情を誘う。東山霊園では桃と桜が競演している。一本桜では中田町に名木が点在する。約60本。その代表株は「紅枝垂地蔵桜」と「不動桜」。いずれも郡山市指定天然記念物になっている。「滝桜」の子か孫だという。

先日、「龍光寺」の桜を見に行ってきた。



龍光寺の枝垂れ桜

見に行ってきたというより、偶然の出くわせといった方がよい。美術館の坂を登り、緑ヶ丘の住宅団地を通りぬけ、赤沼まで来たとき、「龍光寺の桜」の案内矢印が出ていたので自転車を走らせてみたという次第。見事な枝垂れ桜だ。中田町界隈の桜はまだ三分咲きだというのに、ここだけは満開だった。見るものを見たという満足感があつた。

ところでこの桜の下に「高山彦九郎の碑」

と書かれてある石塔があった。彦九郎といえ
ば多くの人一度はお目にかかっている。
え？どこで？京都三条大橋のたもとにある遥
拝像といえましょうか。あの人こそ寛
政の三奇人、尊王論者といわれた彼なのであ
る。彼は、天明の大飢饉後の東北の惨状をま
のあたりにして、幕府批判へと傾き、やがて
その思想は明治維新へとつながっていく。で、
なぜこの寺に碑があるのか。寺の人に聞いた
ところ、ここのかつての住職が彦九郎と交友
があったとか。彦九郎が書いた『北行日記』*
には次のようなくだりがある。

「13日、笹川宿を立つ。右にあふくま川を
見る。こわらだを過ぎ壺里八丁にして郡山宿
八百軒斗り、久保田を経て福原宿、比和田に
蛇骨地藏堂松浦佐世姫堂あり。安積山はなだ

らかなる芝山也。郡山より壺里二十八丁にし
て安積山茶店五軒。高倉を出でて五百川橋渡
る。仁井田を過ぎ小坂を経て本宮宿入口に会
津道あり、…」

彦九郎は東北の旅で郡山を通過していたの
だ。江戸から水戸、福島、米沢、青森、終点
は京都までの約半年の旅。郡山で龍光寺に
寄ったかどうかは定かでないが、少なくとも
この桜を見ることはなかった。日記の日付は
寛政2年7月13日（旧暦）である。

さて、次はどここの桜を見に行こうか。

*『日本庶民生活史料集成 第3巻』（三一書房）所収
（図書館長 安藤 勝）

<学報編集委員>

委員長 清水 秋雄	遠藤 進	加藤 幸一	清浦 祐輔
安藤 勝	小林 克也	榊原 直文	坂本 新一
倉本 敬二	高橋 朋子	千葉 有	深沢 行雄
佐藤 安宏	増子 文夫	谷代 尚人	
藤井 史郎			

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示
の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数
でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見
・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先／奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報113号（通算No.238）平成19年4月25日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

平成19年度 進学相談会日程（前期）

月 日	開催地	開 催 場 所
4月24日(火)	郡 山	ビッグアイ
5月8日(火)	新 宿	新宿 NS ビル
21日(月)	秋 田	ホテルメトロポリタン秋田
22日(火)	盛 岡	ホテルメトロポリタン盛岡本館
23日(水)	弘 前	ホテルニューキャッスル
24日(木)	青 森	ホテル青森
25日(金)	八 戸	八戸グランドホテル
28日(月)	山 形	山形国際ホテル
29日(火)	長 野	ホテルメトロポリタン長野
30日(水)	松 本	ホテルブエナビスタ
31日(木)	甲 府	ベルクラシック甲府
6月5日(火)	仙 台	ホテルメトロポリタン仙台
〃	水 戸	水戸プラザホテル
6日(水)	福 島	サンパレス福島
〃	宇 都 宮	マロニエプラザ
7日(木)	郡 山	ホテルはまつ
8日(金)	い わ き	いわきワシントンホテル椿山荘
11日(月)	会津若松	会津若松ワシントンホテル
13日(水)	鶴 岡	東京第一ホテル鶴岡
〃	新 潟	ホテル新潟
16日(土)	東 京	サンシャインシティコンベンションセンター
20日(水)	横 浜	横浜新都市ビル（そごう）
21日(木)	大 宮	大宮ソニックシティ

平成19年度オープンキャンパス

5/17(木)・6/19(火)

15:00～18:00

時 間	歯 学 部	薬 学 部
15:00～17:00	学内個別ツアー	学内個別ツアー
17:00～18:00	選択制：個別相談 クラブ活動見学 在学生懇談	選択制：個別相談 クラブ活動見学 在学生懇談

7/24(火)・8/25(土)・9/22(土)

12:00～16:30

時 間	歯 学 部	薬 学 部
12:00～12:45	学 食 体 験	
13:00～13:15	オリエンテーション	
13:15～13:45	キャンパス見学	
13:45～14:45	実習体験 「コンピューターで 歯医者さんを体験しよう」 (齋藤高弘 教授) 「歯医者さんの道具を体験しよう」 (清野晃孝 准教授)	実習体験 7/24 「漢方薬を作ってみよう」 (藤井祐一 准教授) 8/25 「化学反応で発光させよう」 (岩木和夫 講師) 9/22 「模擬薬局で薬剤師体験」 (東海林徹 教授)
15:00～15:45	模擬授業 7/24 「歯を抜きました。 その後どうする？」 (山森徹雄 准教授) 8/25 「宇宙から歯科医学を目指す キミ達への贈り物」 (横瀬敏志 教授) 9/22 「歯の寿命は？」 (宮澤忠蔵 教授)	模擬授業 7/24 「森からの伝言」 (野沢幸平 教授) 8/25 「飽食の時代を生きる キミたちへ」 (上野明道 教授) 9/22 「化学物質と私たちの健康」 (押尾 茂 教授)
15:45～16:30	個別進学相談、在学生との懇談	個別進学相談、在学生との懇談